

2010年度事業報告書

(2010年6月1日～2011年5月31日)

特定非営利活動法人
冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク



2010年職業競爭力

2010年職業競爭力調查報告

職業競爭力調查報告

職業競爭力調查報告

目次	・・・・・・・・・・	p.1
2010 年度事業概要	・・・・・・・・・・	p.2
1. 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、 それを広げる事業	・・・・・・・・・・	p.3
2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業	・・・・・・・・・・	p.3
3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業	・・・・・・・・・・	p.3
4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業	・・・・・・・・・・	p.3
5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業	・・・・・・・・・・	p.3
6. プレーリーダーの養成に係る事業	・・・・・・・・・・	p.4
7. 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業	・・・・・・・・・・	p.5
8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業		
指定管理事業「海岸公園冒険広場」	・・・・・・・・・・	P5
委託事業「若林地産地消ショップ運営事業」	・・・・・・・・・・	p7

2010 年度事業概要

2010年度の事業は、国分町の事務局を中心にしたネットワーク事業並びにプレーリーダー養成等事業、海岸公園冒険広場(「ぼうひろ」)を中心として地域を巻き込みながら進める子どもの主体的「遊び場運営」事業、「産直広場ぐるぐる」による若林区の農家と連携した地産地消推進システム確立に向けた産直市場事業の3つを柱としてきました。

前者は、本会設立の当初からの目的ですが、後の2つは、仙台市からの指定管理を受けた6年目になるものと、若林区が雇用促進をベースに企画した地域振興策プロジェクトの2年目の受託事業になります。

これらの事業は、それぞれが一応の成果を見せていますが、特に 2011 年度から指定管理事業の期間が5年に延長されることを見据え、「ぼうひろ」スタッフのより積極的なネットワーク事業への取り組みや、「ぼうひろ」を離れた地区ごとの小さな遊び場の展開などを指向して、新たな事業展開を模索してきました。

今年初め、無事、指定管理者に選定されたのですが、3月11日の大震災で「ぼうひろ」自体が津波に吞まれ、2人のプレーリーダーは、間一髪、ヘリで救助される事態が発生しました。その再開は、周辺環境の整備や安全確認を待つ必要があり、具体的な今年度の指定管理料が決まらない状況です。「ぼうひろ」の管理棟は天井まで浸水し多くのものが失われ、「ぐるぐる」の作業場であったプレハブは津波で財産ごと流出したことなどによって、通常の活動が困難な状況にあります。

しかし、私たちは懸案であった地区の遊び場づくりや、被災した農家の支援も含めた地産地消ショップ運営に動き出しています。さらに、全国からの各種の支援活動が殺到し、その受け皿としての活動も求められ、大変忙しい日々を送っています。

この状況の中でも、子どもたちと共に復興に向けて前進できるよう、それぞれの力を寄せ合っていきたいと思っています。

① 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、それを広げる事業

■理事会における当会団体会員及び他団体の活動報告

①7/9 ②7/28 ③8/10 ④12/12 ⑤1/19 ⑥3/27 ⑦4/28

■他団体とのネットワーク

*子どもの権利条約フォーラム in みやぎ (実行委員会主催) …分科会企画

11月14日「ぼ~っとする権利?~子どもの自尊感情を育む~」

*災害子ども支援ネットワークみやぎ…被災地への支援活動

②冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業

■会報はらっぱ発行

今年度は発行できなかった。

■HP等

冒険あそび場ネットHPのリニューアル

ぼうひろブログ更新

産直広場ぐるぐるHP新設及びツイッター開始

■せんだいCEARS2010に参加

情報誌に当会活動紹介及びプレーリーダー養成講座のお知らせを掲載

■メーリングリスト(以下、ML)、メールマガジンへの参加

日本冒険遊び場づくり協会会員ML

西公園プレーパークの会 asoboML

防災教育チャレンジプランメールマガジン

みんみんメルマガ(特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター)

みずねっと通信(特定非営利活動法人みず・環境ネット)

■その他、事業・イベント情報をNPO団体や、公共施設、マスコミに向けて

行なっている。(チラシ配布願い、ポスター掲示依頼、情報掲載依頼)

③ 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業

■海岸公園冒険広場来園者アンケート実施により、来園者のニーズを知り、冒険遊び場開設への啓蒙とする

<調査期間> 平成22年11月~平成22年3月

<調査方法> 管理棟の一角に「冒険広場アンケート」コーナーを設置。いくつかの設問と自由記入欄を設定し、来園者の自由記入による調査を実施した。

④ 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業

■冒険遊び場の開設に向けた相談や、講師依頼等を受ける。受信した事務局と理事との連携で対応している。

・大学生の卒業論文の資料提供

・大学の講義に関する資料提供、活動補助

・各施設・団体・行政へのアンケート回答

⑤ 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業

■高校生のNPOで夏ボラ体験(主催:社の伝言板ゆるる)

7月 海岸公園冒険広場で受け入れ

■社々かんきょうプログラム実践

一昨年、幼児向きの環境教育プログラムを作り、昨年度から希望する保育所や幼稚園を訪問している。子どもたちの発想を大事にした活動となり保育士さんからも好評であった。

「いろ色発見隊～季節のカメラマン～」

10月21日 鶴が丘保育所 11月 8日 穀町保育園
11月12日 東六郷幼児園 12月10日 袋原保育所

⑥ プレーリーダーの養成に係る事業

今年度は、子どもの権利条約を踏まえた養成講座を行なった。子どもの権利条約批准から16年。しかし、いじめ・不登校・虐待・貧困など子どもの状況はあまりよいとは言えない。子どもたちが本来持っている自尊感情を大切に、自己肯定感を高め、自分も人も社会も幸せにする生き方をしてほしい。そのため大人は何をどうすればいいのかを、講座や現場研修から体得してもらえたものと思う。

3月11日の震災により、13日に予定していた青木将幸ファシリテーター講座が中止となってしまった。青木氏には、時期が来たら「癒しと復興のワークショップ」に来仙するとの温かい言葉をいただいた。今回受講された方々も含め、子どもの心のケアを緊急課題とし、新たな活動を進めていきたい。

■10月31日/旭ヶ丘市民センター「子どもを大事にする・自分を大事にする」

子どもを取り巻く状況を見守る現場から報告。

指導や管理ではないかわり方を学ぶ。

講師：高橋和恵（NPO せんだいこどもの丘、鶴巻児童館館長）

■10月13日/エル・ソーラ仙台「わたしOKあなたOKでエンパワー」

10月14日/青年文化センター「ぼ～っとする権利？～子どもの自尊感情を育む～」

子どもの遊び環境を取り巻く現状について学び、問題解決のトレーニングを通して、子どもや親との関係性について考える。

講師：金 香百合（HEAL ホリスティック研究所所長）

■11月21日/旭ヶ丘市民センター「遊び方にもジェンダーの視点で」

日常生活の中の性差別に気づき、子どもとの向き合方考える。

講師：大沼 洋子（あそぼう広場主宰）

■12月12日/エル・パーク仙台「データから見る冒険遊び場」

全国の「冒険遊び場」の運営方法を分類し、子どもの居場所づくりを進め方について考える。

講師：佐藤慎也（山形大学教授）

■2月27日/利府町沢乙北公園「現場研修」エル・ソーラ仙台「振り返りと今後の展望」

りふ・プレーパークを実践の場とし、実際に子どもと向き合う。

講師：荒田直輝（フリーランスプレーリーダー）

今後の課題

今回の震災により子どもたちは、揺れや津波による直接の不安に加え、大人たちが災害に翻弄される中で安心を奪われるなど、その多くが程度の差こそあれケアの必要な状況におかれている。日々の暮らしの中で子どもたちが自らを癒せるような環境をつくっていくことが課題になっていると考えられる。

子どもが持つ「自分の欲求に基づく行動＝遊び」を通して自らを回復させていく力に着目し、子どもが能動的に遊べる場づくりや、見守る人の輪づくりを含めた環境づくりを行い、子どもの心のケアを行ってきたい。これを展開するために、冒険遊び場の理念に賛同する仲間を増やし、子どもにかかわる人材の育成を進めていかなければならない。

⑦ 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業

「宮城県青少年育成計画パブリックコメント」「仙台市健やかな体の育成プラン」へ意見表明の呼びかけ子どもが「健やかな体」を育むためには、何をにおいても日々の生活の中で十分に遊ぶことが大事なのだが、これらのプランの中では軽い扱いになっている。遊びの大事さの視点を持った意見を皆で伝えていくことができたらいと考えている。

⑧ 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業

● 指定管理（海岸公園冒険広場）

平成 22 年度は、当共同体が指定管理者となって 6 年目、2 期目の最終年である。本年度も、行政・地域・NPO・企業の連携によって貴重な公共空間を守り育てていった。

この一年は、4 月の寒さから始まり、8～9 月にかけての猛暑、また東日本大震災による閉園の影響もあり、総来園者数自体は前年度よりも減少した。しかし、それらの影響を受けなかった時期を中心に、5 月、7 月、10 月、12 月、2 月など、過去最高の利用者数となった月も多い。年を追うごとに市民に定着してきていることが表れたものだと考えている。

また、自主事業の実施については、引き続き公園サポーター等ボランティアの参加も得ながらおこなっているが、開園後 5 年以上になり、かつて小学生として遊びに来ていた子がイベントの企画・実施で大きな役割を果たす場面も増えてきた。また、地元の町内会、学校、授産施設、行政各機関等から構成する運営委員会も引き続き開催し、公園の運営・管理に関する意見を聞いて公園の運営に活かした。東六郷小学校・荒浜小学校の交流事業の会場としての利用や、東六郷幼児学園の子たちの自然体験の場の提供・作品展示など、隣接する教育施設との連携・協力にも引き続き力を入れた。

本公園の最大の特色である「冒険遊び場」においても、引き続き、やりたいことを自由にできる環境づくりに努めた。自由に遊ぶことを通して子どもたちが自ら考え創造できる場を提供すると共に、子どもの育ちにとっての「遊び」の重要性を大人に伝える場としての意義も大きくなってきている。「自分の責任で自由に遊ぶ」の理念にもとづく過保護で過剰な管理を行わない方針や「来園者が自ら参加できる公園づくり」の考え方は公園の運営にも活かされ、利用しやすく、再来園したいと思える公園の実現につながられていると考えている。

3 月 11 日の東日本大震災においては、沿岸部にある本公園も多大な被害を受けた。しかし、津波警戒区域等の市想定なども大きく超える規模の大津波にもかかわらず、来園者を速やかに避難誘導し、また地元からの避難者の安全を確保することができたのも、日々の運営の中で対策をとってきたために他ならない。また、公園再建に向けてのホームページ（ブログ）へのコメントなどを見ても、公園利用者からの感謝や期待の思いが多数寄せられており、これまでの指定管理業務の中で培っていたものが表れたと考えている。

■ 地震。津波後の活動実績

① ネットワーク型「ほうひろ」の企画・運営

- ・六郷地区および七郷地区等、若林区内での遊び場づくり
被災した子どもたちが、散り散りになってしまった友だちと再会して遊ぶことのできる場所をつくる。故郷の環境と新しい環境をつなぐ橋渡し。
→ 「六郷あそび場」の開催 5/1(日)、5/7(土)、5/14(土) 予定：5/28(土)、29(日)
- 七郷地区の公園での活動可能性の検討（現地調査等）
- ふるじろプレーパーク 3/27(日)、4/3(日)、4/24(日) 予定：5/22(日)
- ・その他、市内での遊び場づくり開催支援
→ 西公園プレーパーク 4/16(日)、20(水) 予定：5/31(火)

② 環境破壊実態調査と復旧の方針策定（市と協働）

- ・津波被害の検証 … 将来の防災の資料に

→ 諸分野の研究者・機関の調査に協力。また、それぞれの情報の共有を図る。

日本造園学会、日本応用地質学会、日本公園緑地協会、等

・津波痕跡の保存（管理棟内部・外部・展望台周囲の山など）→ 4/28(木)、5/12(木)実施済み

・冒険広場の建築物・遊具等の安全性検証

・地域の復興構想（市復興基本計画等）との連動・補完。

冒険広場の避難実績も踏まえ、国有林地帯の中に震災瓦礫を活用した津波緊急避難所兼用の展望広場を増設することも検討。

→ 諸分野の研究者・機関による提案のための調査に協力。

③ 復旧にかかわる作業（市と協働）

・管理棟内部・周辺の瓦礫の片付け

→ 4/3(日)、4/9(土)、5/12(木)ほか実施 予定：5/27(金)

・津波被災樹木の養生（特に、実のなる木について）

→ 4/26(火)、5/12(木) 状況調査

・復旧作業に必要な環境の整備（仮設トイレ、水タンク、発電機等確保、電動工具等準備、汚水処理機能確認、等）→ 発電機、電動工具等、一部確保。水タンクの確保手配中。

・遊具の保守（ふわふわドーム幕の養生、外部電源切り替え可否の確認）

・管理棟・駐車場倉庫より使用可能物品の仕分け

④ 管理棟周りの「思い出」拾集

・多くの人が公園で遊んでいたことの「記憶」となる物を保全・保管する。

・公園で遊んだことのある人々の言葉を集めておく。

⑤ 次期の展開にむけた企画

・周辺環境の調査（「生き物たんけん-UMA をさがせ」の再開にもつなげる事前調査、また過去の記録の復元）→ 4/20(土)、5/15(日) 従前からの事業実施協力者（講師）と園内状況の確認

・全国に向けた募苗プロジェクト開始→ 植樹協力申し出への対応・調整。

・津波被災倒木の利用の検討、および利用計画の申請
（ベンチ、テーブル、遊具等に活用。またデイキャンプ場用の燃料として使用。）

・ぼうひろ畑の管理 → 5/12(木) 生存状況の確認と一部施肥。

⑥ 体験を踏まえた津波避難マニュアルの再構築（市と協働）

→ 当日の避難状況・課題の整理

⑦ その他

・外部（研究者・協力者・報道等）からの各種問い合わせ・要請に対応する業務

→ 報道機関：朝日新聞(3/24 掲載)

河北新報(5/15)

共同通信(4/9)

読売新聞(未確認)

→ 研究者等：

・日本造園学会 東京大学 武内和彦学会長 ほか7名 4/3(日)訪問

奈良女子大学 宮城俊作氏 ほか3名 5/1(日)訪問

・国際生態学センター 4/7(木) 宮脇昭氏ほか7名

・日本建築学会調査団 早稲田大学 佐藤滋氏・明治大学 中林一樹氏ほか 4/10(火)訪問

・応用地質学会 橋本修一氏 4/20(水)訪問

・日本公園緑地協会 4/21(木)訪問

・東北工業大学 都市マネジメント学科 新井信一氏ほか 4/26(火)訪問

・大正大学人間学部 西郷泰之氏 4/29(木) 天野秀昭氏 4/6(水)訪問

・東北大学教務委員 古谷豊氏 4/29(木)訪問

・日本都市計画学会 4/29(木)訪問

- ・首都大学東京都市システム工学科 市古太郎氏ほか8名 4/29(木) 訪問
- ・東北大学 災害制御研究センター 越村俊一氏 …写真提供
- ・外部への支援要請とコーディネートに関する業務

◎地域による冒険広場の活用のための聞き取り

- ・井土地区
- ・荒浜新町地区

●若林地産地消ショップ運営事業

2009年9月15日に若林区と締結した「若林地産地消ショップ運営事業」は、2010年6月のグランドオープンをもって、本格的に始動した。その後各地でショップを開き、若林区の新鮮な「元気野菜」の普及に務めている。

■6月6日 グランドオープンイベント

もちまき、ポン菓子など、賑やかに開催した。

■7月24日25日 東北電力e-電化ライフフェア

電磁調理器具のキャンペーンの企画にかかわり、来場者へのプレゼントにぐるぐるの野菜が使われた。会場内では「農家レストランもろや」の料理教室が行われ、そこに使われた野菜を中心に、会場入り口で野菜の販売を行なった。



■7月31日荒浜新町町内会・潮音荘夏祭り

潮音荘の夏祭り和新町町内会の夏祭りが合同で行われた地元のお客様にぐるぐるのPRができた。

■8月2日3日 荒町毘沙門天王祭

何年に一度のご開帳の年にあたり、参道での販売に参加した。商店会との交流ができ、以後の出店につながった。

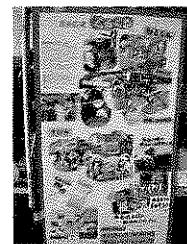
■8月28日Eポート探検

六郷地区・七郷地区活性化協議会の主宰事業で、子どもたちが貞山運がに親しむイベントに参加。漁協を始め、地元の方々との交流もでき、新しくオープンしたセンターハウスとの協働につながる活動ができた。

■10月2日3日荒町市民センターまつり

■10月17日 若林区民まつり

ぐるぐるの活動紹介と地元野菜をPR。区民まつりならではの賑わいがあり早々に完売した。

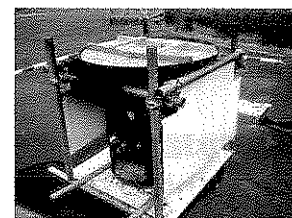


■10月23日 おもしろ駅伝

広瀬川宮沢橋付近の河川敷で行われた区の事業に出店。

■11月14日 産直広場ぐるぐる一周年記念収穫祭開催

プレオープンから1年が経ち、また気持ちを新たに。大鍋の豚汁も大人気で、地産地消の良さをアピールできた。



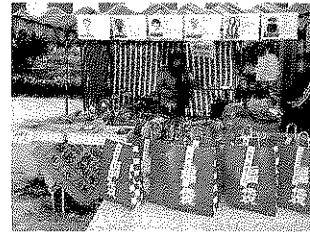
■12月26日 もちつき体験教室開催

センターハウスを使ったイベントの実施。親子連れでにぎわった。子どもたちには、餅米をふかすところから見せ、一人一人が杵でのもちつきを体験した。ついた餅はまどか荒浜の指導でいろいろな味を楽しめ、皆が満足できた一日となった。



■1月15日16日 初売り

恒例の福袋販売は、待ち望んでいるお客様も多く、すぐに完売した。



■1月23日マルシェジャポン・センダイ初出店

一番町で行われているマルシェに参加することによって、他のショップから学ぶことも多い。「お届けマルシェ」にも登録し、今後の宅配事業展開に向けて第1歩を踏み出したが、協力農家が被災したため、震災以後は見合わせている。

■2月24日 フォンテーヌ前販売開始（以後毎週木曜）

地元での販路拡大を目指し、授産所において開始したが、常連も増え少しずつ認知されてきている。



■2月26日～27日

うれし楽し蔵deひなまつり出店

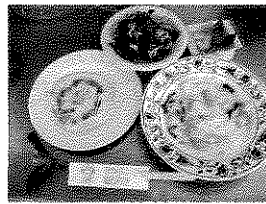
（河原町 旧仙南堂薬店）

粋々まちなかプロジェクト主催のひなまつり企画では初めての飲食物販売を担当した。「おソトでほっこりカフェ」のネーミングどおりの



やさしい味の野菜スープやお汁粉を販売した。また、スタンプラリーの景品として、野菜BOXのお届けを試みたところ、たいへん好評であった。

■3月5日 親子deクッキング開催（六郷市民センター）



相原農場の相原栄子さんを講師に迎え、生産者ならではの野菜をいかしたレシピを紹介していただいた。野菜の話も興味深く、参加者からの質問も多かった。親子で楽しみながら「地産地消」のメリットを感じてもらえたようである。

■3月31日 若林事務所前で販売開始（若林マルシェ）

ぐるぐる新事務所の周知を図ろうと数回販売した後毎週水・曜土曜に決定。ご近所の方々の期待に応えられるよう、品揃えを充実させていきたい。

■4月2日 荒町販売開始（以後毎週土日：荒町どにいち）

商店会の多大なるご協力を得て販売を開始した。荒町に新しい賑わいを作るためにも、着実に顧客を増やしていきたい。

■4月6日 鉄砲町水曜産直市の場所変更

鉄砲町コンテナは3月31日までの活動だったが、その後真諸を変えて継続することとなった。コンテナでの客足を戻し、さらに新しい顧客を掴むために努力している。



■毎月8日 お薬師さんの手づくり市（前年度からの継続）

震災後も一度も休まずに続けられている手づくり市は、お客様や他の出店者との交流に欠かせない場となっている。ここで得た消費者のニーズや、店舗レイアウト、接客方法、他地域の情報などを考慮し、より良いショップ運営を目指したい。

平成 22 年度 特定非営利活動に係る事業会計財産目録

平成 23 年 5 月 31 日 現在

冒険活動法人冒険あそび場一せんだい・みやぎネットワーク

科 目 ・ 摘 要		金 額 (単位:円)		
I 資産の部				
1 流動資産				
現金手元在高	公園	137,713		
同	ネット	587,315		
同	産直	940,291		
普通預金	仙台市役所	304,562		
同	同	412,655		
同	宮城町支店	37,473		
同	名掛丁支店	12,267		
同	仙台市役所	23,207,360		
同	同	1,201,037		
未収金	会費	2,000		
敷金	日東ハイツ	90,000		
	流動資産合計		26,932,673	
2 固定資産				
	固定資産合計		0	
	資産合計			26,932,673
II 負債の部				
1 流動負債				
未払金	給与控除分3から5月分	609,741		
同	社会保険3/4月分	264,643		
同	諸経費5月分	137,900		
前受金	若林区まちづくり推進課	20,737,500		
同	23年度会費	2,000		
預り金	社会保険3月分	101,812		
同	源泉所得税	1,000		
	流動負債合計		21,854,596	
2 固定負債				
	固定負債合計		0	
	負債合計			21,854,596
	正味財産			5,078,077

平成 22 年度 特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

平成 23 年 5 月 31 日 現在

特定非営利活動法人冒険あそび場—せんだい・みやぎネットワーク

科 目	金 額 (単位:円)		科 目	金 額 (単位:円)	
I 資産の部			II 負債の部		
1 流動資産			1 流動負債		
現金及び預金	26,840,673		未払金	1,012,284	
未収金	2,000		前受金	20,739,500	
敷金	90,000		預り金	102,812	
流動資産合計		26,932,673	流動負債合計		21,854,596
2 固定資産			2 固定負債		
			負債合計		21,854,596
			III 正味財産の部		
			前期繰越正味財産	3,624,975	
			当期正味財産増加額	1,453,102	
			正味財産合計		5,078,077
資産合計		26,932,673	負債及び正味財産合計		26,932,673

平成 22 年度 特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

平成 22 年 6 月 1 日 から 平成 23 年 5 月 31 日 まで

特定非営利活動法人冒険あそび場一せんだい・みやぎネットワーク

科 目	金 額 (単位: 円)	
(資金収支の部)		
I 経常収入の部		
1 入会金収入		
2 会費収入		
正会員会費収入	50,000	
賛助会員会費収入	8,000	
団体会員会費収入	4,000	62,000
3 事業収入		
事業収入	20,245,810	
指定管理料	18,366,333	
他事業収入	3,052,205	41,664,348
4 補助金等収入		
5 負担金収入		
6 寄付金収入		
寄付金収入	55,000	55,000
7 雑収入		
受取利息	2,562	
雑収入	3,376	5,938
経常収入合計		41,787,286
II 経常支出の部		
1 事業費		
給料手当	19,579,505	
法定福利費	2,201,587	
福利厚生費	58,841	
会議費	225,688	
外注費	4,943,750	
旅費交通費	1,525,630	
通信費	649,105	
消耗品費	1,316,021	
事務消耗品費	276,587	
修繕費	23,125	
印刷費	301,995	
光熱水料費	1,155,334	
リース料	1,127,813	
保険料	78,601	
諸謝金	377,700	
租税公課	990,800	
手数料	83,384	
ネット事業支出	559,026	
地代家賃	759,090	
新聞図書費	16,589	
広告宣伝費	11,000	
研修費	33,870	
雑費	37,847	36,332,888
2 管理費		
給料手当	1,817,850	
福利厚生費	18,249	
広告宣伝費	50,400	
会議費	28,596	
旅費交通費	206,790	
通信費	173,391	
事務用品費	354,421	
消耗品費	10,697	
印刷費	73,387	
雑損失	12,020	

科 目	金 額 (単位:円)		
光熱水料費	85,956		
リース料	76,860		
租税公課	124,700		
研修費	5,000		
支払手数料	10,710		
地代家賃	540,000		
新聞図書費	2,000		
雑費	410,269	4,001,296	
経常支出合計			40,334,184
経常収支差額			1,453,102
III その他資金収入の部			
1 固定資産売却収入			
2 敷金・保証金収入			
3 借入金返済収入			
4 特定預金収入			
5 繰入金収入			
IV その他資金支出の部			
1 固定資産取得支出			
2 敷金・保証金支出			
3 借入金返済支出			
4 特定預金支出			
5 繰入金支出			
当期収支差額			1,453,102
前期繰越収支差額			3,624,975
次期繰越収支差額			5,078,077
(正味財産増減の部)			
V 正味財産増加の部			
1 資産増加額			
当期収支差額		1,453,102	
2 負債減少額			
増加額合計			1,453,102
VI 正味財産減少の部			
1 資産減少額			
2 負債増加額			
当期正味財産増加額			1,453,102
前期繰越正味財産			3,624,975
当期正味財産合計			5,078,077